

-本紙を書くにあたって-

私は元来、海外留学を経験したいと思っていた一方で、留学先を選ぶ決め手や留學生活のイメージをすることに苦勞しました。正直なところ、情報収集、他大学との比較という点で不十分なところがありました。そのため本紙が留学に興味のある方々の助けに少しでもなれば嬉しいです。

-大学について-

当校は BIG 10 と呼ばれる大学群の一つであり、アメフトとインターナショナルな学生の多さが特徴です。一方で日本人学生は少ないため日本人同士固まるといった心配はありませんでした。敷地内には多くの寮や講義等、スポーツ施設が併設されている広大なキャンパスであり、敷地内にはバスが走っています。また動植物が多く見られる自然豊かなキャンパスでもあります。まさにアメリカンサイズ、そう思わせてくれる大学の規模感でした。

-講義について

何と言っても予習と課題の量の多さには驚きました。テスト期間にはそもそも図書館の席を探すことに苦勞するほど皆が熱心に取り組んでいました。その中で英語の拙い私は、時に睡眠時間を削り勉強することで無事に単位を取ることができました。講義では人数の規模感はそれぞれ異なりますが、一般的に双方向性が強く、発言をする機会が多くありました。英語力の向上という観点では非常に良かったと思います。学校の規模からも推測できる通り講義については選択肢が充実しており、どの学部・専攻の方も満足できると思います。

-寮について-

寮は基本的に4つに区分され、学生はダウンタウンとの距離や通う講義棟との距離などを考慮して選択します。部屋は基本的に1人部屋から4人部屋までが存在し、人数が多くなるほど値段は反比例的に減額されるというシステムでした。その中でも私は一番スタンダードな2人部屋を選択しました。室内には机やクローゼット、冷蔵庫、電子レンジ、ベッドが完備されており、キッチンやバスルーム、洗濯機は共有でした。長期休暇には別料金を支払えば滞在可能ですが、殆どの学生が寮を出ます。私の場合は、留学以前からの友人の家に泊まらせてもらい、いわゆる一般的なアメリカ人の日常生活を経験しました。また旅行好きな性のためニューヨークやワシントンDC、ロサンゼルス、アラスカ、グランドキャニオンなど多くの地に足を運びました。基本的に一人旅であったため見知らぬ人と会話をする良い機会となりました。

-食生活について-

学期前にミールプランという茨城大学でいう学食パスに入金することが一般的です。私はこれを使い夕食は友人とダイニングコモンズ(学食)で食べ、談笑するというのが日課でし

た。キャンパス内にはスタバなどカフェテリアが多く存在し、そういったところでもミールプランは使えるため有効に利用していました。近くにはアジアンマーケットや日本料理店も有るため、日本食へのアクセスは簡単です。個人的にはアメリカの油っこく塩辛い味付けが当初口に合わなかったため重宝していました。

-日常生活について-

平日は夕方まで講義や予習、課題に時間を費やすというのが一般的な流れでした。その後に時間がある時は友達とビーチバレーやビリヤードをしていました。冒頭で軽く触れましたが、キャンパス内には多くのスポーツ施設があります。これは一般開放されているものもあれば、公式戦で使うための立派なものもあります。そのため友達とスポーツをして汗を流す、またアメフトやバスケットなどの試合を観戦するということが日常でした。またメインの体育館ではスタンディングコメディやコンサートといったものも催されており、私が留学中にはビリー・アイリッシュのコンサートがありました。当校は田舎町にある一方で、このような多様なイベントが大学側から提供されるため、充実した時間を過ごすことができました。

-最後に-

正直なところ苦労したことは多くあります。時期に関しても3年で留学すれば就職活動と重なり、時差の関係で夜中に説明会や面接を受けることもあります。一方で留学生生活を振り返るとそういったマイナスなことではなく楽しかったことばかりが思い出され、留学期間は短かった、もっと長く留学していたかったというのが素直な感想です。この1年は疑いもなく私のターニングポイントになりました。留学は学生だからこそできる特権です。少しでも興味があるならばまずは各大学について調べるなど何か行動を起こしてみてください。そして本紙がその一步を踏み出すきっかけになれば幸いです。